

1 研究主題

納得するまで追究し、みんなで考え、解決しようとする子の育成  
 ～「あれ?」「きっと…」「ということは…」が続く理科学習～

2 研究の具体



3 研究の検証及び改善の手立て

- 「全員参加」の授業を目指すことで、みんなで考え教え合い、学び合う授業が具現化しつつある。全国小学校理科研究協議会研究大会の参加者アンケートでは、「子どもが自ら対話し育っていると感じた」といった意見を多くいただいた。また、R3香川県学習状況調査では、「学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」について、93.8%の児童が肯定的回答をしている。
- 教師が子どもの意識を大切に授業を行うことで、子どもたちも自身の問題と捉え、主体的に問題を解決し、追究していこうとする姿が多く見られるようになった。
- 11月の全国小学校理科研究協議会研究大会での授業公開、実践発表に向けて、教員全員で支え合いながら、研究を進めることができた。また、高学年では教科担任制を実施した。教員の専門性を活かした授業づくりを展開することで、6年生へのアンケート調査では、ほぼすべての児童が「勉強がよく分かる」と回答した。教員アンケート調査では、「自分が担当する教科にかける教材研究の時間が確保された」など、すべての教員が肯定的回答をした。
- みんなで考え、学び合う授業といった協働的学びを実践することで、個の能力や興味・関心に応じた個別最適な学びの機会が少なくなっている。今後は、問題によっては、個別の解決方法で実験をするなど、協働的な学びと個別最適な学びの一体化を図っていきたい。